

Technical Bulletin # 125

2011/07/22

炉内に落ちたセメントのかけらについて

対象機種： ソープストーンストーブ全機種

ユーザー様より、「炉内の灰の中に、細長い数センチのかけらのようなものが落ちていたのですが、この素材は何ですか？また、これが落ちたことにより、ストーブの性能や安全性に影響はありますか？」というような問い合わせメールを受けることがしばしばあります。実際にそのかけらを送ってくる方もいらっしゃいます。率直にお答えすると、ストーブの性能や安全性には全く影響はありません。ソープストーン製ストーブは、ソープストーンを組んで作られています。石と石の間にセメントを使いますが、組み立ての過程で余分なセメントが押し出され、ファイヤーボックスの内壁がしっかりと固定されます。また、天板の石まで組み立てると、さらに余分なセメントが押し出され、セカンダリーエアーマニフォールドの上に取り付けたバップルの周囲から出ます。ストーブは、燃焼中に加熱と冷却を繰り返し、その温度変化にさらされた余分なセメントのいくつかは、膨張したり収縮したりするにつれ、灰の中に落ちます。これはときどき見られることであって、異常ではありません。これらのかけらには、下の写真のように様々な形や大きさのものがああります。



ソープストーン各板は約30ミリの厚さがあり、ソープストーン同士が接触する面には細長い溝があります。その溝に金属製の薄板をはめ、溝の隙間を埋めるようにセメントを塗布し、石と石を接着させます。トップとボトムのカスティングパーツには、壁を構成するソープストーンをはめこむことの出来る溝があり、セメントとガスケットを溝に入れて石を固定し気密性を高めます。これらの見えない場所に使われているセメントはストーブの気密性を保つ役目をしています。余分なセメントが炉内に落ちたとしても、問題はありません。